

今回は、通常とは異なり、号外1号を担当神谷でお送りさせていただきます。

《IS DESIGN は、鈴鹿8時間耐久ロードレースを戦います！》

アイエス通信ではよくバイクの話題が挙がるがありますが、それは、社内にバイク好きの人が多からにほありません。

そして、来る7月28～31日に開催される国内で最大規模であるオートバイレースの鈴鹿8時間耐久ロードレース、通称8耐に参加するチームにスポンサードすることになりました。チーム名は、『KMII Z-TECH』ゼッケン20番、奈良県を本拠地とするレーシングチームで、約10年連続8耐に参加しています。

また今回、私、神谷が『KMII Z-TECH』のメカニックとして参戦します。



《鈴鹿8耐に出場するまでの経緯》

昨年の12月、「オレの引退レースっていつ？」友人であり戦友である、かつてライダーだった和田憲史郎の一言から鈴鹿8耐への再挑戦が始まったと思います。

もともと和田憲史郎とは、私がメカニック、彼がライダーという関係性で、全日本選手権や鈴鹿8耐に参戦しており、全国各地のサーキットを転戦していました。しかしなかなか結果が出ず、けじめをつけられないと思い2008年のシーズン終了とともに、「もうレースできない。」と一方的に彼に伝えたことを残念ながらうっすらと憶えています。

そして、丸7年間のブランクを経て2016年3月末日、雨の降る中、鈴鹿サーキットでの初テストの日を迎えることになりました。

雨の中とはいえ、最高時速は270km/hにもなるため目はまったく付いていかず、ラップタイムも悪く焦り、結果2回も転倒し7年間のブランクと厳しい現実を知りました。そして『諦めたほうがよいのでは…』と考えさせられることとなりました。というのも、今年から8耐への参戦条件が変わり、エントリーにあたっての敷居が上がったことが理由にありました。昨年までは、国際A級ライセンス保持者なら出場でき、予選を通過することにより決勝レースに出場できるようになっていました。しかし今年はより参加者のレベルを全体的に上げるため、参加台数の上限は70チームとし、前年度の実績より20チーム、海外チーム10チーム、主催者推薦10チーム、これら以外の残り30チームの出場枠を賭けて4月末のレースでまず10チーム、5月初旬のレースで残り20チームを決定するため、合計2回の出場権を賭けた選抜レースが開催されることになりました。

まずは初テストから1回目の選抜レースまでの一ヶ月間、少しでも勘を取り戻すために少しでも多く走行したいのですが、時間がなく、また、ラップタイムが遅いままではレースに出ること自体危険なため、レースの予選までに目標タイムが達成できなければ、レースを棄権しようと決めました。

その後レースまでに2回走行機会があり、想定タイムに届いたものの、肝心のレースは、0.3秒届かず予選落ちとなってしまい、あっという間に、復帰レースは終わってしまいました。

第2回目の選抜レースでは、順調にタイムを伸ばし、予選を23位で突破したものの、決勝レースでは、スタートの

失敗もあり 22 位とあと 2 台届かず 8 耐出場権は獲得できませんでした。しかし、7 年のブランクがありながら、せっかくに手ごたえを感じることができるところまで来たのに、このまま終わるのは勿体無いのと、監督やチームオーナーの薦めもあり主催者推薦枠に嘆願書を出したところ、過去の実績が認められ、6 月の初めに 8 耐に出場可能との連絡をいただきました。

去年の 12 月の時点ではただ希望を口にただけでブランクがありながら出場できるほど甘くはないと半ば諦めていましたが、3 月から急に話が進み、4 月、5 月とレースがあり 6 月に出場が決まってしまう、今月末には本番のレース。本当にあっという間の半年間でしたが、少しの希望だけ信じてきた結果、当初の目標は達成することができました。当時とは違い二人とも若くないですし、お互いの環境も変わり、あまり無理もできなくなりましたが、周りの理解もあってこうしたことに挑戦させてもらっている以上、決して諦めず中途半端なことだけはしないようレースに臨みたいと思います。

#20 KMII Z-TECH の応援よろしくお祈いします！

《鈴鹿 8 時間耐久ロードレース、通称 8 耐とは？》

FIM 世界耐久選手権シリーズとして毎年 7 月最終週末に三重県、鈴鹿サーキットで開催される日本最大のオートバイレースです。1978 年に第 1 回大会が開催されて以来、途切れることなく今年で 39 回目を迎えます。昨年の来場者数も 4 日間で 12 万人を超え、近年は増加傾向にあります。

全盛期は 1980 年から 1991 年代初頭のバイクブームと相まって、異常な盛り上がりを見せたことを記憶にある方も多いと思います。近年では、島田紳助さんのチームが復活したり（1 年で撤退しましたが）、アニメ、エヴァンゲリオンとのコラボチームが走るなどが有名でしょうか？海外でもレースの知名度は高く、去年はキアヌ・リーブスさんが、プライベートで来場し話題になりました。また、国内では、BS12 で生放送し、世界中に映像配信されています。

肝心のレースのルールとしては、バイクは 1 台、ライダーは 2 名、もしくは 3 名で 8 時間走り続けもっとも多く周回したチームの勝利となります。

鈴鹿 8 耐公式ホームページ <http://www.suzukacircuit.jp/8tai/>

《8 耐の魅力とは？》

・レースの過酷さ

通常のレースでさえ、過酷ですが、8 耐は梅雨明けの一番暑い時期に一番暑い時間帯を狙って開催されます。スタート時刻は午前 11 時 30 分、ゴールは午後 7 時 30 分。そんな中、ライダーは、ヘルメットと皮ツナギを装着し、暖房機と化したバイクにまたがり、蒸し暑い真夏の日中から、日没の暗闇の中を走ります。トップチームともなれば、最高速度は時速 290km に到達し、1 周 5.8km コースを、2 分 10 秒前後、平均時速約 155km/h で周回し、給油やタイヤ交換を繰り返し 8 時間後のゴールを目指します。

・世界耐久選手権としての位置づけ、メーカーの威信をかけた戦い

8 耐は、FIM 世界耐久選手権のうちの一戦として組み込まれており年 1 回しか開催されません。そのためほかの国内のレースとは異なり、海外からの参加が多く非常に国際色豊かなレースになっています。

また、国内 4 メーカー、ホンダ、ヤマハ、カワサキ、スズキは非常に力をいれており、8 耐のためだけに海外から有名ライダーを招集するなど、メーカーの威信を賭けたレースにもなっております。

・参加するためのハードル

かねてより、8 耐は、ライダーにとって憧れのレースでした。より大会レベルのレースを開催するため本年度からの特徴として 8 耐に参加するために、選抜レースが設けられました。参加台数の上限は 70 チームとし、前年度の実績より 20 チーム、海外チーム 10 チーム、主催者推薦 10 チーム、これら以外の残り 30 チームの出場枠をかけて、4 月と 5 月に選抜レースが開催されました。

《KM II Z-TECH について》

『KM II Z-TECH』とは大阪市平野にあるバイクショップ KM II (ケーエムツー) と奈良県にあるレーシングチーム Z-TECH(ジーテック)がジョイントしたチームになっています。

使用マシン

スズキ GSX-R1000 2010 年式

4 ストローク並列 4 気筒

排気量 1000cc

馬力 180ps 以上

車重 180kg 以上



(上記の画像は、8 耐選抜レースのもので、本番ではゼッケン、カラーリングが異なり、ヘッドライトなどを装備した耐久レース仕様になります。)

代表者：木村 毅

第1ライダー：和田 憲史郎

第2ライダー：川瀬 和希

第3ライダー：福山 京太

チーフメカニック：上林 久幸

エンジニア：神谷 勇介



株式会社 IS DESIGN アイエス通信編集部 発行日 2016 年 07 月 15 日 発行人 池田英樹

〒581-0816 大阪府八尾市佐堂町 2 丁目 3-15 久宝ビル 301 TEL:072-929-1336 FAX:072-929-1338

Email:h.iked@is-design.net URL: <http://www.is-design.net>

Copyright(c)2014 株式会社 IS DESIGN all rights reserved